

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
塩野 徳史、中馬 成子、西山 忠博、吉井 紀子、田中 亮子			
火1、2			
添付ファイル			

科目の概要	<p>本科目では対象の情報収集に必要な技術として、ヘルスアセスメントの目的と問診・視診・触診・聴診・打診の方法を学び、系統別にフィジカルアセスメントの目的と方法を学ぶ。看護の対象を理解する上で、フィジカルアセスメントの能力は必要不可欠である。フィジカルアセスメントを行う場面の多くは、患者の病状経過や治療経過に対応して、身体状況の変化を予測しつつ、病態に関連したポイントに焦点をあてて観察する場面となる。そしてフィジカルアセスメントを実施した先には、必ずアセスメント結果を活かした看護援助があることを理解する必要がある。</p> <p>そこで本科目では、系統別（神経系、筋・骨格系、呼吸器系、循環器系、消化器系）フィジカルアセスメントの目的と方法を学び、どのような状況で必要になるのか、得られた情報をどのように判断すればよいのか、また次の観察や看護援助にどう活かしていくのかを考えながら、適切なフィジカルアセスメントを実践する技術を修得することを目指す。</p>
授業の内容	<p>オリエンテーション シラバスを事前によく読んでおくこと</p> <p>第1回 (講義) ・ヘルスアセスメントとは何か ・フィジカルアセスメントとは何か ・問診、視診、触診、聴診、打診の意義と方法 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P64-P90</p> <p>第2回 (講義) ・筋・骨格系のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 ・筋・骨格系のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P166-P174</p> <p>第3回 (演習) 1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント：関節可動域の測定</p> <p>第4-5回 (講義) オンデマンド ・呼吸器系のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P128-P140</p> <p>第6-7回 (講義) ・循環器系のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P140-P150 (講義) ・呼吸器系のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P128-P140</p> <p>第8-9回 (演習) ・循環器系のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P140-P150 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント：呼吸音、胸部の問診、視診、打診、聴診 2) 循環器系のフィジカルアセスメント：循環器系の問診、視診、聴診</p> <p>第10-11回 (講義) オンデマンド ・消化器系のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 ・消化器系のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P156-P165</p> <p>第12-13回 (講義) ・神経系・感覚器のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P174-P203 (講義) ・消化器系のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 ・消化器系のフィジカルアセスメント：事例によるアセスメント 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P156-P165</p> <p>第14-15回 (演習) ・神経系・感覚器のフィジカルアセスメント：基礎知識と実際 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院, 2019. P174-P203 1) 消化器系のフィジカルアセスメント：腹部の問診、視診、聴診、打診、触診 2) 神経系・感覚器のフィジカルアセスメント：運動機能、感覚機能の評価、反射、目・耳・口のアセスメント 定期試験</p>

学習到達目標	<p>1. 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察することができる。</p> <p>2. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察することができる。</p> <p>3. 循環器系のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察することができる。</p> <p>4. 消化器系のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察することができる。</p> <p>5. 神経系および感覚器のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、看護の視点で対象者を観察することができる。</p> <p>6. 各援助技術について、その法則性・理論的根拠を理解し、適用の目的と効果を判断できる。</p>
授業の方法	<p>【授業形態】 講義形式・演習形式を組み合わせで行う。</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 演習は4クラスに分かれて行い、さらに3人～4人のグループに分かれて実施する。実習室の準備と後片付けは技術の一環として取り扱い、学生が教員の指示のもと交代して主体的に行う。初回にグループ配置表を配付する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 講義は遠隔（オンデマンド）形式と対面形式で行う。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 小テスト、演習レポート、定期試験で評価する</p> <p>【割合】 小テスト（10点×3回）30%、演習レポート（5点×4回）20%、定期試験50%</p>
教科書・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2019.
参考書	<p>守田美奈子、鈴木憲史：写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス、インターメディカ。</p> <p>熊谷たまき他：看護がみえるVol. 3 フィジカルアセスメント、メディックメディア。</p> <p>山内豊明：見る・聴く・触るを極める！ 山内先生のフィジカルアセスメント 技術編、ナース専科BOOKS。</p> <p>山内豊明：患者さんのサインを読み取る！ 山内先生のフィジカルアセスメント 症状編、ナース専科BOOKS。</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>各援助技術の学習に際し、事前課題の実施、授業後の振り返りを行い、それぞれレポートにまとめ学習内容の修得に努めてください。そのために講義前後に各60～90分の自己学習を必要とします。特にこの講義では解剖生理の知識や基礎看護援助論で修得した技術が必要となります。技術については、繰り返し練習するために実習室を開放する予定です。事前に担当教員に相談し、自己学習を積み重ねてください。</p> <p>講義の初めに前回までの講義の内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。また演習時には事前に課題を提示しますので、演習後に提出してください。</p>
履修上の留意事項	<p>講義・演習では主体的に考える個人の学習が基本です。内容によっては、グループ学習によって協力し合い学びの効果を高めることもあります。提示された課題、事前学習は必ず指示された日時までに行ってください。この授業は、全出席が前提となります。講義演習の出席は「出席カード」で確認します。遠隔授業の場合にはレポート課題の提出によって出席を確認する場合があります。講義中の携帯電話・スマートフォンなどは原則、使用禁止とします。演習中は、患者さんを想起し、私語は慎み、技術習得のために真摯な態度で臨むようにしてください。</p> <p>新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染状況や、教室の規模、受講者数を総合的に考慮し、感染対策（マスク着用や手指消毒など）を講じた上で対面授業を行います。各自、体調管理には十分に注意し、授業前には健康管理表を持参して提示してください。</p>
オフィスアワー	塩野徳史：火曜・水曜日 12:20-13:30 5号館 研究室102
課題に対するフィードバックの方法	講義演習で提出した小テスト、レポート類は返却します。特に小テストの回答についてはその都度、期間を決めて掲示しますので、復習に役立ててください。また、質問や理解が難しい箇所がある場合には、そのままにせず、オフィスアワーやメール等で事前に日程を調整してから、お越しくください。
実務経験	看護師
その他	<p>1) 講義や演習の予習、復習を必ず行い授業にのぞむこと。</p> <p>2) 実習室の使用にあたっては、「使用の基準」を守り、適切なユニホーム・身だしなみで入室すること。</p> <p>3) 演習時の使用物品の準備と後片付けは学生が行い、整理・整頓すること。</p> <p>4) やむを得ず欠席する場合には、可能な限り迅速に担当教員に連絡・相談し、自己学習を行うこと。</p>